



俳句の普及・発展

かわ むら みち お
川 村 三千夫

(本名 かわ むら みち お
川 村 道 男)

(85歳)

住 所 仙北市

秋田県俳句懇話会副会長、会長を歴任し、会の中心として県内の俳壇の発展に寄与した。

また、県内俳句大会の講師、選者を長年にわたり勤め、県内俳句文化の向上に尽力したほか、秋田県国際俳句交流協会、合歓の会、仙北市角館町芸術文化協会などの顧問に就任し、俳句を始めとする地域文化の振興に貢献した。

平成4年より平成22年までの19年間、俳誌「合歓」の代表・発行人に就任し、選者として有望新人の発掘に努めるとともに、仙北市を中心に近隣各地に俳句会を設立し、初心者への指導・俳句の普及に尽力するなど後進の育成にも尽力している。



民謡の普及・発展

たか はし いさむ
高 橋 勇

(83歳)

住 所 秋田市

昭和45年に秋田市文化団体連盟に加盟、理事、常務理事、副会長を歴任し、現在は事務局長を務めている。

昭和42年に秋田県赤十字芸能奉仕団設立に参画し、「愛の芸能祭」実行委員長を務め、慰問活動に尽力した。

平成10年から11回にわたり、「秋田民謡全国チャンピオン競演会」実行副委員長として、本県民謡の普及に尽力したほか、平成16年に秋田港の唄全国大会（高齢の部）で優勝するなど歌い手としても活躍した。

また、平成20年には郷土創作オペラ「ねぶり流し物語」で、秋田民謡と小学生の新秋田音頭の出演を企画したほか、第29回国民文化祭・あきた2014では、「子ども邦舞邦楽フェスティバル」にも関わるなど本県の芸術文化の向上及び発展に大きく貢献している。



書道の普及・発展

あき た し ざん
秋 田 師 山

(本名 あき た ぜん いち
秋 田 善 一)

(81歳)

住 所 秋田市

長年にわたり秋田書道展審査員、秋田県総合美術展（県展）の専門委員を務めるとともに、秋田県書道連盟の役員として、県全体の書道の技術向上に寄与し、秋田県造形美術家協会の活動を通じて本県の芸術文化の向上に貢献した。

また、昭和38年より秋田県書写書道教育研究会に参画し、幹事長、会長を歴任し、東北大会を開催するなど書道の普及に尽力し、その後、全日本書写書道教育研究会の顧問を務めた。

昭和40年には県内唯一の書写教育月刊雑誌「書友」の指導者として児童・生徒の書写の向上に尽力し、現在もその中心となって活躍している。

書作家として自己鍛錬に努め、日展入選を3回果たしたほか、日本の書展招待作家として作品を出品するなど、現在も活躍を続けている。



能楽の普及・発展

こ だま やす お
小 玉 康 夫

(80歳)

住 所 五城目町

昭和46年に宝生流教授嘱託免状を取得し、昭和52年に五城目町小宝会を主宰して、地域の有志へ謡曲指導を行うなど後進の指導に尽力した。

秋田県宝生会の幹事、副会長、会長を歴任し、組織の充実発展に尽力したほか、秋田市における東北大会の開催などにより、全国的に秋田県を発信し、秋田県謡曲の振興に貢献した。

また、袴能「羽衣」を上演するなど、その企画運営、地頭（一曲の責任者）としての指導力は高く評価されている。

昭和60年に秋田県能楽囃子連盟を組織、初代会長に就任し、技術向上に寄与するとともに、毎年、秋田県能楽囃子大会を開催するなど、秋田県では未知の領域であった能楽囃子を普及させた。

また、秋田県謡曲連盟会長として、三流合同仕舞舞囃子大会等を円滑に企画運営したほか、第29回国民文化祭・あきた2014の「能狂言の祭典」の実現に向けて詳細な実施計画を立案し、祭典の成功に貢献した。



地域産業・観光の 振興・発展

ひろ はた しん えつ
広 幡 信 悦

(66歳)

住 所 能代市

昭和41年に中田建設株式会社に入社以来、多数の建築工事を手がけたほか、社内のリーダーとして部下の指導育成に大きな成果を上げ、平成2年に同社役員に就任して以降、地域の中核的建設企業として安定的な経営を行い、同社の経営基盤の基礎を構築、平成15年に代表取締役社長に就任し、現在に至る。

能代商工会議所の会頭として平成22年に「第一次中期行動ビジョン」を策定し、明治時代に能代地域で運行されていた大型灯籠を復活したほか、「港まつり能代の花火」を北東北有数の規模に成長させるなど地域振興に貢献した。

平成22年に能代観光協会の会長に就任し、平成24年には、同協会のNPO法人化により組織の充実強化を図るなど観光振興に努めた。平成27年には、「能代火力発電所3号機」建設が決定したことに伴い、地元企業の受注体制づくりを進めるなど、地域産業の振興に向けた取組に尽力している。



木材産業の振興・発展

きく ち せい いち
菊 地 成 一

(66歳)

住 所 五城目町

昭和62年に秋田県集成材工業協同組合理事に就任して以来、副理事長、理事長を歴任し、同組合の発展と地域木材産業の振興に大きく貢献した。

また、天然秋田杉などの国産材優良資源の減少と急速に変化する住宅様式・工法に対応するため、住宅部材の集成材化を図り、海外での生産活動や販路拡大など、木材の需要拡大に尽力した。

平成15年に秋田県木材産業協同組合連合会理事に就任して以来、副理事長、理事長を歴任し、地域はもとより、県全体の業界活性化のための多彩な情報の提供や提言、活動を行い、業界発展のために尽力するとともに、同連合会の組織改革に取り組み、県木材産業界の再編整備の方向性を導き出し、平成26年12月に秋田スギ製材協同組合を設立することで針葉樹製材業界の統一化を図った。



スポーツの振興・発展 と地域興し

故 ^{いわ}岩 ^{もと}本 ^{しゅん}俊 ^{えつ}悦

(享年67歳)

住 所 北秋田市

地域の活性化を目指して「北緯40° 秋田内陸リゾートカップ 100キロチャレンジマラソン」を立ち上げ、第2回から第5回大会までは実行委員長、第6回大会からは事務局長として円滑な運営に尽力した。

毎年、全国から参加する約1,700名のランナーを、実行委員会スタッフや地域住民約2,800名がボランティアとして支えるなど、沿道住民と参加ランナーの心のこもった交流により県を代表する一大スポーツイベントに定着するまでに拡大させた。

また、大会運営にあたり地域間の連携を図るため、秋田内陸線各沿線地域に幾度となく足を運び、地域・世代・性別を超えた広域的なネットワークづくりに努めるとともに、前・後夜祭では、伝統芸能や地元の祭りなどを披露するなど大会運営の随所に地域の歴史・文化をちりばめるとともに、特産品の販売を行うなど地域文化の普及と経済の活性化にも貢献した。